

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 薬学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 I 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「基本的組織の編成」

近年の医療高度化、複雑化、高齢化社会の到来、医薬分業の急速な進展等の状況の中、薬剤師には、医薬品の適正使用を推進するため、服薬指導・薬歴管理・リスクマネジメント・安全な薬物療法の提供・医薬品情報の伝達・治験の推進など、これまで以上に多様な役割を果たすことが求められている。このような状況の中、平成 18 年度に設置された薬学部臨床薬学科（6 年制）では、基礎的な知識・技術はもとより、高い倫理観、医療人としての教養、医療現場に通用する実践力など薬剤師としての資質の一層の向上を図る必要がある。

臨床薬学科において目指す人材育成として以下の 4 項目がある。1) 豊かな人間性を備えた薬剤師の育成。2) 高度化・専門化する医療に対応できる人材の育成。3) チーム医療に参画できる薬剤師の育成。4) 医療薬学領域において、薬学研究を遂行できる研究者・教育者の育成。

上記の本学部の教育目的を達成するため、平成 21 年度に、臨床薬学科における教育・研究の拠点として准教授 2 名、助教 1 名の実務家教員よりなる臨床育薬学分野が新設された（資料 I - A : 修学のとびき 2009 P - 8）。それに加え、臨床薬学科高年次学生のための教育施設として臨床薬学教育センター（844 平米）を新たに設置した（修学のとびき 2009 P - 26）。

資料 I - A 臨床育薬学分野について

◆臨床育薬学分野

<http://ikuyaku.phar.kyushuu-u.ac.jp><http://pedu.phar.kyushu-u.ac.jp>

准教授 島 添 隆 雄 (〒6949) (shimazoe@phw.med.kyushu-u.ac.jp)
准教授 窪 田 敏 夫 (〒6573) (t-kubota@pharm.med.kyushu-u.ac.jp)
助 教 小 林 大 介 (〒6573) (dkobayas@phw.med.kyushu-u.ac.jp)

研究内容

- ・薬学教育における教育システムならびに評価法の確立
- ・種々の薬物（漢方薬・健康補助食品を含む）のがん・その他疾患に対する予防・治療についての研究
- ・体内時計機構の解明とその異常に基づく疾患に対する治療薬についての研究
- ・種々の薬による有害作用の予防および改善に関する基礎・臨床ならびに遺伝学的研究
- ・各種疾患の病態と薬物療法
- ・内科疾患および他の身体疾患領域における向精神薬投与についての研究
- ・各症例に対する服薬指導の方法論の確立
- ・心理的アプローチを導入したがん患者への服薬指導方法の構築と評価法の確立

(出典：「修学のとびき 2009」8 ページ (抜粋))

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 薬学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

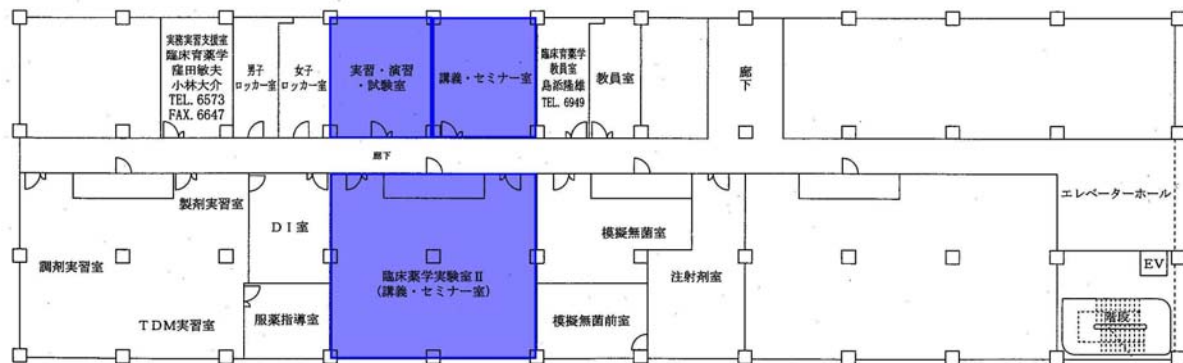
分析項目Ⅲ「教育方法」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「主体的な学習を促す取組」

平成 20 年に新たに設置された臨床薬学教育センターにおいて、主体的な学習を促す取り組みの一環として、講義・セミナー室、臨床薬学実験室 II、実習・演習・試験室の 3 室（計 271.6 m²）を自習室として開放するとともに、パソコン 40 台（臨床薬学実験室 II に設置）を学生用に開放している。また同時に、教育内容に直接的に関連する図書（35 冊）も整備し、自由閲覧を可能とした（資料Ⅲ－A：修学のとびき 2009 P-26）。これら施設の利用可能な時間帯は平日 8 時から 19 時である。また利用対象学生（現時点では臨床薬学科 4、5 年次学生（総計 60 名））は毎日、これらの施設を活用し、自主的な学習に励んでいる。21 年度以降では平均的には 20 名以上/日の利用状況である。

資料Ⅲ－A 臨床薬学教育センター内にある学生自習用スペースについて



青色で示した部分が学生用に開放している講義・セミナー室、臨床薬学実験室 II、実習・演習・試験室である（出典：「修学のとびき 2009」26 ページ（抜粋））。